

成果と課題

(1) 成果

- ・学校評価に取り組むことで、自校の教育目標、目指す生徒像、学校像、教師像が明確になり、学校教育の営みを全教職員で共通認識ができる。
- ・重点目標を全教職員が意識し、日々の教育活動に取り組むことができる。
- ・評価の結果を、数値化することにより、教科指導、学級、学年経営、校務分掌等で年度の目標値が設定しやすく、課題の改善点を具体的に検討し、次年度の計画に生かすことができる。
- ・学校が重点的に取り組んでいることに焦点をあてて外部評価として、生徒や保護者にアンケート調査を継続し、その結果と考察、次年度への改善点を教育課程説明会等で公表した。これにより、生徒や保護者に本校の教育活動のねらいや目的に対する関心を高めることができ、日々の教育活動への理解をより深めることができる。
- ・学校評価を継続的に取り組むことで、学校の教育活動が活性化し、その結果を公表し、また共有することで、学校への信頼性が高まる。
- ・学校は全体的に良くしようと努めているが、何に対してよく何に対して改善が必要なのかを、学校評価に取り組むことで確認が出来る。学校も良いことは自信を持って伸ばせるし、マイナス面はすぐに改善できる。
- ・24年度の新学習指導要領完全実施に向けて研究している内容や取り組みを知らせることが出来る。
- ・生徒にとって学校が楽しい場であることを知らせ、生徒を囲む家族・教職員・地域が手を携えてそれに向けて努力していることを知らせられる。

(2) 課題

- ・日常の教育活動に対する評価を保護者や地域の方々にしてもらうためには、参観のための公開授業や、学校行事等の機会をできるだけ設定する必要がある。その公開期間や設定方法・回数、また、そのときのアンケート等における質問項目の表現を、客観的な評価につながるよう検討する必要がある。
- ・アンケートを取った際に学校教育推進の意義を理解された保護者の方が年々多くはなっているが、個人の要望や学校への批判も表面化している。
- ・「わかる」授業の工夫に、教材研究や他の研修機関への参加、教員同士の意見交換、生徒一人一人とのふれあいなどに時間を掛ける必要がある。
- ・24年度の新教育課程編成に向けて、夏休みの効果的な利用法を考える必要がある。